

国立病院機構熊本医療センター

No.218



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

平成27年度 第1回 開放型病院運営協議会が開催されました

— 第1回開放型病院連絡会は9月14日(月)に決定しました! —

7月6日(月)、当院会議室にて今年度第1回目の開放型病院運営協議会が開催されました。協議会には、外部委員の熊本市医師会長の福島敬祐先生(当協議会委員長)、同医師会副会長の園田寛先生、同医師会理事の田中英一先生、家村昭日朗先生の4名にご出席いただきました。河野院長の開会挨拶、福島委員長のご挨拶に続き議事に入りました。議事は事務局より地区別登録医数、開放型病院共同指導実績、くまびょうニュースの発行状況についての報告がありました。続いて開放型病院連絡会の開催について協議が行われました。その結果、平成27年度第1回開放型病院連絡会を、平成27年9月14日(月)午後7時より、ホテル日航熊本にて開催することを決定しました。開放型病院連絡会は総会と意見交換会の2部構成となっています。会場は、2部とも同ホテル5階の阿蘇の間で行います。総会では、症例呈示、地域医療連携室及び、紹介予約センターからのお知らせを予定しています。総会終了後、

第39回 開放型病院連絡会のご案内

日時：平成27年9月14日(月)午後7時～9時

場所：ホテル日航熊本(5階 阿蘇の間)

— 内容 —

(1) 開放型病院連絡会総会

1) 症例の呈示

「当院における臍帯血移植の現状」

血液内科医長

河北敏郎

「腫瘍内科の紹介」

腫瘍内科部長

境 健爾

「最新の結石治療(f-TUL)について」

泌尿器科医長

陣内良映

2) 地域医療連携室からのお知らせ

地域医療連携室長

清川哲志

3) 紹介予約センターからのお知らせ

地域医療連携副室長

大塚忠弘

(2) 意見交換会

【連絡先】

国立病院機構熊本医療センター管理課

電話 096-353-6501 内線2311(清水・今村)

引き続き意見交換会を行います。

この連絡会を機に地域の医療機関の皆さまと益々の連携強化を図りたいと考えています。どうぞ医師、メディカルスタッフ、看護師、MSW、事務職他多くの皆さまのご参加を賜りますようお願い申し上げます。

(管理課長 清水就人)



開放型病院運営協議会の様子

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「地域包括ケアシステム 推進に関わる取り組み」

御幸病院

院長 吉田 健



昨今、地域包括ケアシステムの構築が推進されています。御幸病院では、昨年度病床の一部を変更し、地域包括ケア病床を開設しました。自院の外来からの入院患者様はもとより、急性期病院やクリニックの先生方からご紹介いただいた患者様の治療と在宅復帰を支援していく上で、当院にとって必要な病床と思われたからです。

H26年6月に10床の病床の開設から開始し、その後病床数を追加し、現在は計39床を地域包括ケア病床として診療を行っています。

この病床では極めて多種・多様な疾患・病状の患者様の入院治療に対応しています。改善が容易ではない病状や、多数の疾患が併存した複雑な病状の方も多く、苦労しながらも、病状に応じた適切な治療が提供できるよう、皆頑張っている診療しています。この病床の重要な役割は、在宅復帰へ向けての支援ですが、病状から、在宅復帰は困難な患者様も多く、支援の拡大について、なお今後の課題です。

また当院は、H26年4月に在宅療養支援病院の認定を受けました。在宅療養支援病院は、いつでも連絡が取れ、往診や訪問看護がいつでも提供できる体制を確保し、緊急時には直ちに入院できるなど、在宅で療養中の患者様に必要に応じた医療・看護を提供できることが必要となっています。通院が困難で、訪問診療を希望される患者様に対しては、積極的に対応していく方針です。よいQOLを得るために、訪問サービスで在宅生活を支えることが、どのような病状でどの程度有用なのか検証もできるとよいと思っています。

国立病院機構熊本医療センターと当院は、白川をはさんで、距離も少し離れていますが、救急車に同乗して行ってみると、驚くほど速く着きます。いつも迅速で親切な対応をいただいております。これからもよろしくお願いいたします。

平成27年度 第1回

熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

平成27年度第1回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が7月13日（月）午後7時より、熊本県歯科医師会館会議室で開催されました。熊本市歯科医師会からは宮本会長、渡辺副会長、高松専務理事、有働医療管理理事、高橋医療管理委員長が出席いただき、当院より河野院長、高橋副院長、清川総括診療部長、原田救命救急科医長、中島歯科口腔外科部長が出席しました。

まず、当院の歯科紹介率、紹介数についての報告、次いで当院の歯科救急医療について原田医長より今年上半期の歯科口腔外科救急症例数と内容の報告がありました。今年の特徴として顔面外傷による救急搬送例が多かったと説明がありました。

本年度の歯科医師研修について、医歯連携セミナーが3回、救急蘇生講習会1回、摂食嚥下リハビリテーションセミナーが6回、同講演会が1回行われることを報告しました。

その他として、当院開放型病院連絡会のご案内、当院歯科口腔外科の現状として、耳鼻科との連携手術（年間30例あまり）のこと、摂食嚥下リハビリテーションへの介入状況（毎月50例）、周術期口腔機能管理で



年間約250名のうち150名程度県内の歯科医院と連携していることの報告を致しました。

今回も、今後のますますの連携強化を確認して、閉会となりました。（歯科口腔外科部長 中島 健）

病棟紹介

7 西病棟



7 西病棟スタッフ

7階西病棟は、消化器内科、感染症の病棟です。消化器内科では、上部及び下部消化管疾患に対するESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）をはじめとする内視鏡検査と治療、胆のう・膵臓疾患に対する内視鏡検査と治療、肝疾患ではC型慢性肝炎治療、難治性腹水に対するCART（腹水濾過濃縮再静注法）、悪性疾患では、化学療法、放射線治療、肝がんでは、TAE（肝動脈塞栓術）、RFA（経皮的ラジオ波焼灼療法）、その他PEG（胃瘻造設）など幅広く、長期にわたる治療から緊急的な治療と多岐に及びます。そのため、クリティカルパスに沿ったケアや指導と共に、病棟担当の薬剤師、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、リハビリ、摂食嚥下チーム、WOCケアチーム、地域医療連携室など様々な医療チームや部署と連携を図り、患者様とご家族一人、一人を大切にす病棟を目指しています。また、感染症疾患のための陽陰圧室を有することから、ICTと連携を取り患者様に応じたケアを行っています。

患者様への教育では、栄養管理室、薬剤部、検査科と共に、「肝臓病教室」を毎月開催し、肝臓病患者様の支援に取り組んでいます。

担当医師との連携を図り、受け持ち看護師が中心となり、患者様とご家族が安心して入院生活を過ごせるよう治療と看護を提供出来るように努力しています。

（7西病棟師長 西辻美佳子）



見晴らしの良い特A個室



肝臓病教室杉先生の講義

MENU～メニュー～

- ・肝臓病のトピックス
- ・肝臓病治療の体験談紹介
- ・語らいの時間



毎年肝炎デーの時期にニの丸かんかんカフェも行なっています。



ダイニングからは金峰山・藤崎台球場が見えます



グループワークの様子



内視鏡検査

2015 診療科紹介 (84) 産婦人科



部長

大西 義孝 (おおにし よしたか)

婦人科悪性腫瘍、緩和ケア医療

日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本産科婦人科学会専門医



第2部長

西村 弘 (にしむら ひろし)

婦人科悪性腫瘍、産婦人科一般、
周産期、生殖内分泌

日本産婦人科学会専門医、日本がん治療認定
医機構がん治療認定医、母体保護法指定医

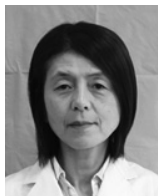


医長

鄭 俊明 (てい としあき)

婦人科一般

日本産婦人科学会認定医



医長

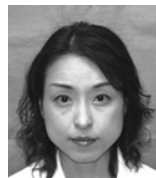
山本 文子 (やまもと ふみこ)

産婦人科一般、婦人科悪性腫瘍

日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本
産婦人科学会専門医

診療の内容と特色

当科は、1961年より、厚生労働省の掲げる政策医療の1つとしての婦人科悪性腫瘍の診断治療を重点目標に掲げ取り組んでおり、科学的根拠に基づいた標準的治療を実践しています。婦人科悪性腫瘍新患治療数は近年さらに増加しています。婦人科入院の7～8割は悪性腫瘍症例で、個々の症例に対しては、患者様及びご家族の意志を尊重した治療の選択を第一に心がけています。手術症例では正確な進行期分類を行い、個々の症例に応じた必要で十分な術式を術前に検討し、最終的には術中所見を考慮し術式の決定をおこなっています。また進行期症例に対しては手術療法、放射線治療、化学療法、さらには化学療法同時併用放射線治療などを用いた集学的治療を実践しています。近年、手術後（治療後）のQOL向上が重視されており、当科においては、術後リンパ浮腫や広汎子宮全摘後の膀胱麻痺などに対しても、様々な工夫を行い取り組んでいます。さらに産婦人科一般診療、救急医療に対しても常時対応しています。

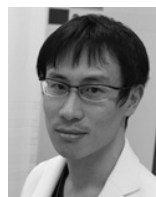


医師

高木 みか (たかき みか)

産婦人科一般

日本産婦人科学会専門医



医師

山本 直 (やまもと なお)

産婦人科一般、腹腔鏡下手術、
婦人科悪性腫瘍

日本産婦人科学会専門医



産婦人科特別診療役

三森 寛幸 (みもり ひろゆき)

婦人科悪性腫瘍

日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本婦人科腫瘍学会暫定指導医、日本臨床細胞学会専門医、日本産婦人科学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、母体保護法指定医、日本産科婦人科学会暫定指導医

診療実績

平成26年の主な婦人科悪性腫瘍の治療実績は、新患患者数で子宮頸部上皮内癌53例、浸潤子宮頸癌（I期以上）で53例、子宮体癌で49例、卵巣癌44例で計199例でした。1974年からの総数は昨年末において、5212例となっています。昨年は子宮体癌と卵巣癌の増加が目立ちました。

現在、これらの悪性腫瘍症例の手術を中心に、一般婦人科手術、緊急手術を行っています。平成26年の婦人科総手術件数は、380件でした。子宮頸部上皮内癌は原則として円錐切除による子宮温存療法を施行しています。また広汎性子宮全摘術症例の骨盤神経温存症例では、非施行例に対して術後の残尿測定期間が減少し、膀胱麻痺が軽減しています。

医療設備

円錐切除術（YAGレーザー、ハーモニックスカルベル）、ハーモニックフォーカスおよびリガシユアインパクト。放射線治療設備に関しては2009年12月に全設備を一新し、外照射ではマルチリーフコリメーター内蔵の外照射装置リニアック、さらに子宮腔内照射では小線源治療装置ラルス（マイクロセレクトロン）が稼動しており、常勤の放射線治療専任医により精度の高い治療が可能です。子宮頸癌の放射線治療症例数も年々増加しています。

ご案内

月曜日、水曜日は通常午前中から、根治手術を予定しています。火曜日と木曜日の午後は放射線治療（RALS）、カンファレンス、子宮鏡などの検査を行っています。木曜日の午後は病棟総回診を行なっています。また急患は、24時間体制で対応しています。

今年度より腫瘍内科の御協力を得て、今後も、さらに婦人科悪性腫瘍の正確な診断及び標準的治療の実践に力を注ぎ、質の高い医療の提供を目標にいたします。

熊本大学大学院生命科学研究部心臓血管外科学 福井寿啓教授の特別講演が行われました

平成27年7月1日（水）に「心臓血管外科最前線」と題して、熊本大学大学院生命科学研究部心臓血管外科学教授 福井寿啓先生による特別講演が行われました。平成27年4月1日に教授に就任されたばかりです。それまでは東京の榊原記念病院心臓血管外科部長として年間300例を越す心臓血管手術を執刀されてこられました。45才とまだお若いにもかかわらず経験豊富で、これからの熊本の医療を牽引していただける心臓外科のホープとして期待されています。講演は心臓血管手術のビデオを中心に手術手技や治療のコンセプトを外科学以外でもわかりやすく図表を交えながら時間をかけて説明していただきました。

冠動脈バイパス手術では人工心肺を使用しないoff-pump CABGの有用性と手術リスクの低減、最近増加している糖尿病性血管病変でびまん性に狭窄した冠動脈前下行枝を4～8cm切開し内胸動脈を吻合するonlay patch法の有用性をお話されました。また弁膜症では僧帽弁形成手術の実際のビデオを供覧されつつ人工弁を使用せず心機能を温存する手技の解説、さらに



講演される福井寿啓教授

先生が得意とされる、急性動脈解離の手術も症例を呈示されながら説明していただきました。教授就任直後から手術を開始されすでに多くの症例を執刀されています。また6月に大学でも大動脈弁狭窄症症例へ経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI, transcatheter aortic valve implantation）が開始されたこともご報告されました。

折しも大雨となり心配していましたが、講演会に多数御参加していただきましたことをお礼申しあげます。

（心臓血管外科部長 岡本 実）

兼城昌邦様より「書」が寄贈されました

兼城昌邦（かねしろ・まさくに）様より書のご寄贈がありました。兼城様は、当院の倫理委員会委員を長年務めて頂いておりましたが、ご本人の希望により今年の3月31日をもって委員を辞されました。「熊本医療センターに、これまでお世話になったので、御礼のつもり」と仰ってのご寄贈でしたが、お世話になったのは当院の方で誠に恐縮しております。

書は兼城様の自筆によるものです。兼城様は、雅号を昌山（しょうざん）といわれる県内でも高名な書道家でいらっしゃいます。毎日書道展で毎日賞受賞、日展入選3回、熊日書道展県知事賞受賞2回、平成20年度熊本県文化賞受賞、平成21年度文部科学大臣より地域功労者表彰、平成22年度第38回熊本県芸術功労者顕彰受賞など輝かしい書歴をお持ちで、熊本県文化協会



左より兼城昌邦様、「歩」の書、河野文夫院長

副会長を2期務め、現在常任理事を務めていらっしゃいます。実は、当院の応接室に飾ってある書も兼城様の作品です。

ところで、今回寄贈された書ですが、なんと書いてあるかおわかりになりますでしょうか？「歩」という文字が書かれています。「いくつになっても自分の力で歩みつづきたい」という兼城様の思いが込められた作品です。書は、倫理委員会の開催会場となっている研修室1に飾っておりますので、機会があれば、ぜひご鑑賞ください。最後に、今回のご寄贈に感謝致しますと共に、兼城様のご健康と益々のご活躍を祈念いたします。

（管理課長 清水就人）



地域医療研修センター 研修室1に飾られた書

第2回 QC活動が始まりました

昨年度はリーダー研修の目的で、病院幹部、職場長を筆頭に組織横断のグループでQC活動を行いました。今年度は小グループによるQCサークル活動を各職場で行います。

平成27年7月2日QC伝達講習の後、7月7日、QC研修を行い計108名と多数の参加がありました。講師としてワイワイ品質総合研究所所長の湯川好孝先生をお迎えしました。湯川先生は国立病院機構QC研修会の講師であり、全国の一流企業や病院のQC研修でご活躍中です。



湯川好孝先生の講習



QC研修会の様子

今年は医療で使用頻度の高いQC手法と図（パレート図、特性要因図など）を中心に丁寧に解説してもらい、「やっと判った」、「とても良く理解できた」の声が挙がりました。自責、自職場の問題を愚直にQC手順に従いやると必ず成果があがるとご教示いただきました。QC活動は、楽しくやるのが成功の秘訣と言われています。病院全体で楽しく改善活動に取り組みます。ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

（副院長 片瀨 茂）

「七夕飾り」に願いをこめました！

昨年、大変好評だった「七夕飾り」を6月29日～7月8日までの期間、小児科病棟と外来待合室に設置しました。

6月に入ると「今年も七夕飾りますか？」と企画課からすぐに声がかかり、短冊、色紙、七夕セット、カラーペンなど、新品の道具を揃えてもらいました。また、敷地内の竹藪から切ってもらった笹の木は、待合室の天井に届くような立派なものでした。飾り付けは医事科の男性職員と外来スタッフで行いましたが、なれない手つきで色紙を切ったり、折

ったりと悪戦苦闘しましたが、とても味のある飾り付けができました。小児科病棟でも、思い思いの願いごとがたくさん下げられ、病棟の一角がにぎやかでした。

短冊やペンも足りなくなる程に多くの皆さんに願い事を書いていただき、短冊の重みでしなる笹を見ていると、準備から関わった職員の願いも叶ったようでした。

当院は、毎日多くの患者さんやご家族が来院され、職員も忙しそうにしていますが、このような行事を通して季節の変化を感じるとともに、私たちも心が豊かになった気がしました。

（副看護部長 田崎ゆみ）



小児科病棟の七夕飾り



外来待合室の七夕飾り

七夕コンサートが行なわれました

7月7日(火) 13時30分から、がんフォーラムではお馴染みとなっております、ボランティアで活動されている「美齡重(ミレージュ)」の皆さんによるトーンチャイムによる七夕コンサートが、外来フロアで行われました。入院患者さまやご家族、外来受診の患者さまや職員も含めて50名近い方々にお集まりいただきました。

トーンチャイムはリハビリ用の楽器で優しい音色が奏でられます。ハンドベルのように、数人で音を分担して音楽を演奏する楽器で、細長いアルミ製の筒にハンマーがついていて、手に持って振ることでハンマーが筒に当たり、共鳴して音が出るしくみです。当日は、約60本のトーンチャイムを持ってこられていました。



演奏される美齡重の皆さん

まず始めに唱歌より、ふるさとや夏は来ぬ、七夕、海が演奏されました。用意された歌詞カードを見ながら皆さんも一緒に歌われました。それから、アニメソングの鉄腕アトムやさんぽ、サザエさん、最後にクラシックより、バッハのG線上のアリア、ショパンの別れの曲等が演奏されました。アニメソングでは小さなお子さんが大きな声で歌ったり、とても楽しそうでした。また、クラシックの演奏の時には、トーンチャイムの優しい音色を目をつぶって聞かれていた方もおり、1時間という短い時間でしたが、皆さんこころ安らぐ時間を過ごされたようで大盛況に終わりました。

(庶務班長 今村宏次)

会場の様子



患者図書コーナーが移転し、リニューアルしました

『患者図書コーナー』が模様替えし、外来化学療法センターの前に移転しましたのでご紹介します。

当院の「患者図書室」は、がん相談支援を目的として、平成21年9月にがん関連のパンフレットと図書を揃えてオープンしました。その後、平成25年の病院機能評価受審に伴い、がん関連の図書だけでなく、健康や一般図書など、病院全体の「患者図書室」として整備しました。しかし、図書室がわかりにくい、利用しづらいなどの問題があり、なかなか皆さんにご利用いただけませんでした。

そこで、平成27年2月に、スペースも広く蔵書も増やして、『患者図書コーナー』として移転しま

パンフレット等も揃えています。



図書の管理を担当する藤本さんです。



した。外観は一部ガラス張りで、中庭の緑に囲まれた落ち着いた空間となり、待合室の一角であることを忘れてしまいそうです。

現在は利用される方も大変多くなり、待合の時間に本を手にとることを楽しみに来院される方もいらっしゃいます。今回のリニューアルに向けて、絵本、写真集、医療や看護・介護など、新たに157冊の図書を購入しました。利用される方からのご寄贈もあり、日々新たな本が追加され、図書整理の担当者からは嬉しい悲鳴も聞こえています。本の貸し出しは行っていませんが、『患者図書コーナー』周囲の休憩スペースでも利用できるようになりました。

今後も、来院される皆さんに喜んで利用していただけますように、図書委員会のメンバーとして整備していきたいと思ひます。

(副看護部長 田崎ゆみ)



緑に囲まれた患者図書コーナー

最近のトピックス

遷延する食物アレルギー児に対する経口免疫療法(OIT)について



小児科 緒方 美佳

食物アレルギー (FA) 児の多くは、乳児期に鶏卵、牛乳、小麦の経口摂取を原因として発症しますが、近年、Lack G.の「Dual allergen exposure hypothesis」(経口摂取は免疫寛容を促進し、経皮的接触はアレルギーの感作を惹起促進する)や、茶のしずく石鹼による小麦アレルギー例が示すように、経皮感作の重要性が注目されています。

FA児の治療では、そのほとんどが乳児期に皮膚炎を合併しており、早期に皮膚状態を改善させることがまず重要です。そして適切な時期に食物負荷試験を受け、少量でも安全な量を継続して食べることが安全な早期寛解(食べられるようになる)につながると考えます。

それでも小学校入学までに寛解せず、7歳以降まで持ち越した場合、自然寛解の可能性は極端に低くなります。近年、国内外の施設から、「連日原因食物を少しずつ食べる」経口免疫療法(OIT)の報告が増えています。当院でも学童以上の鶏卵、牛乳、小麦アレルギー児で、特に微量で呼吸器症状などのアナフィラキシー(An)を起こす重症例であり、かつインフォームドコンセントを得られた希望者に限りOITを施行しております。

入院後に、負荷試験にてどこまで食べられるか(閾値)を確認し、その1/10程度から食べ始め、5-10日

間で増量します。退院後も自宅にて摂取し、毎月外来で少しずつ増量します。目標量まで到達後、6-12か月間継続摂取し、確認試験(2週間の原因食物の完全除去後、目標量を摂取)にて無症状であれば臨床的寛解とします(図1)。

当院では4名(牛乳3名、小麦1名)に施行し、2名は安全に増量(①牛乳:約1年半で臨床的寛解、200ml以上摂取可。②小麦:1年でうどん100g摂取可)できました。残る2名も現在牛乳100mlを摂取可ですが、陽性症状が頻発し長期の治療を要しました。

OITで減感作(食べ続ければ症状が出ない)を得られても寛解を獲得するとは限りません。治療中にAnを含め症状が誘発される可能性も高く、まだ一般化された治療法とはいえません。

当科ではFA児の安全な早期寛解導入を目指しております(図2)。乳児アトピー性皮膚炎や、食物アレルギーを疑われるこどもさんがおられましたらぜひご相談下さい。

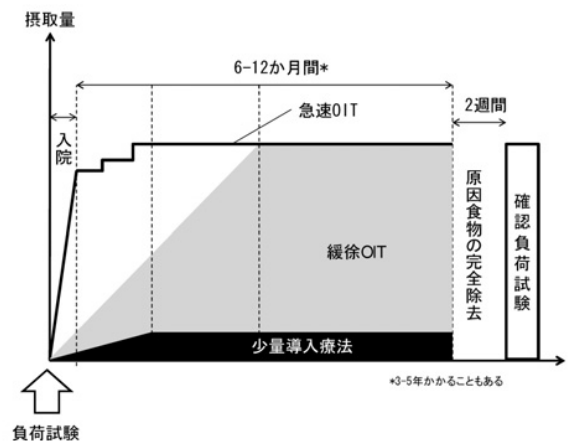
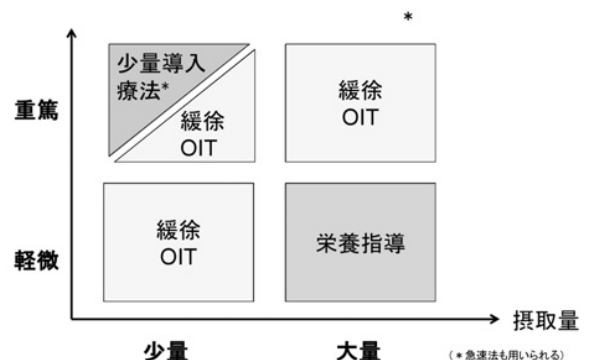
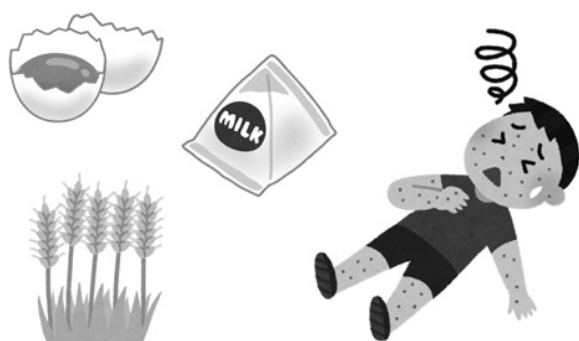


図1 OITの方法



柳田紀之 日小ア誌 2014;28:87-96

図2 リスクに応じた経口免疫療法の層別化



いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ95回

摂食嚥下チームの取り組みと今後の課題

リハビリテーション科 言語聴覚士 西山真倫子

当院摂食嚥下チームは、平成23年3月に歯科医師を中心に看護師（救命・脳血管病棟）、歯科衛生士、管理栄養士、理学療法士、言語聴覚士等が連携し活動を開始しました。現在週に1回摂食嚥下ラウンドを実施、歯科へ嚥下評価依頼があった対象患者の嚥下評価を行い、経口摂取開始の可否を判断するとともに間接嚥下訓練、介助方法等を病棟へ指導し、安全かつ早期に経口摂取をすすめていく事を目標に日々活動しています。早期に嚥下評価や摂食訓練をすすめていく為には、まず開始できる全身状態を整える事が大変重要になります。当院のような超急性期病院においては、脳卒中や重症呼吸器疾患、意識障害患者など様々な方が搬送され安静や治療に伴うカテーテル類の留置は治療上やむをえません。しかしその一方で多くの身体部位の機能や筋力低下による廃用症候群、サルコペニア及び栄養障害等をきたしやすく予防対策を常に念頭におくことが求められます。臥床による心肺機能や認知機能低下に加え口腔乾燥や嚥下諸器官の廃用性低下も複合して起こり摂食嚥下機能は低下する一方になってしまいます。

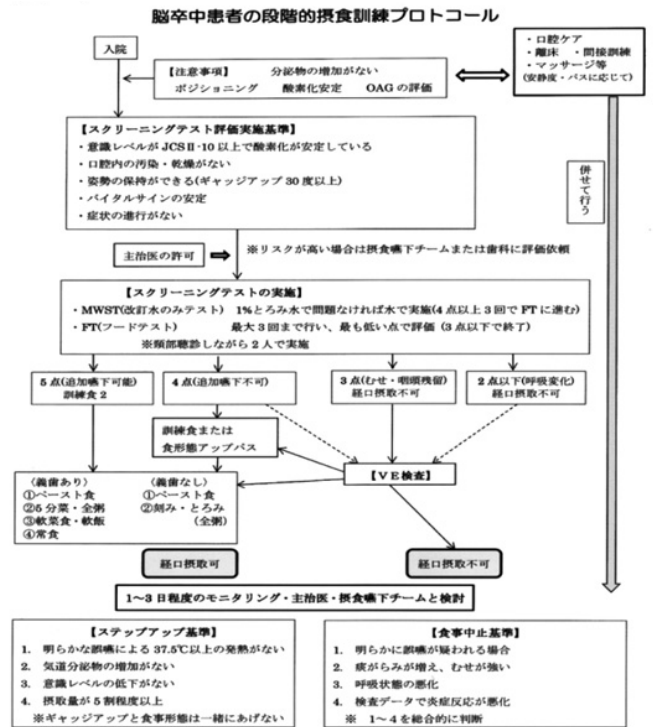
H25年6月～H26年7月に摂食嚥下チームに依頼があった脳血管障害等患者101名を対象に嚥下評価前後での食事摂取状況を調査しました。その結果、評価前の時点では約80%（84名）が絶食・経鼻胃管等で食事未摂取の状態でしたが、評価後は約75%（76名）が何らかの直接訓練を開始する事ができました。また直接訓練を開始した約90%（68名）の患者が窒息や誤嚥を起こさずに経口摂取を継続できており、適切な評価が更に早い段階で実施できれば早期経口摂取や食形態アップへつながる可能性があると考えられます。

食事を安全に開始するには、嚥下機能だけでなく意識レベルや呼吸状態、口腔内環境、認知機能、栄養状態など訓練を行う以前の様々な土台作りや日々のリスク管理が大変重要であり、摂食嚥下チームだけでなく医師・病棟看護師・コメディカルなど様々な職種の協力を得て嚥下障害に対する院内での統一理解が必要不可欠です。

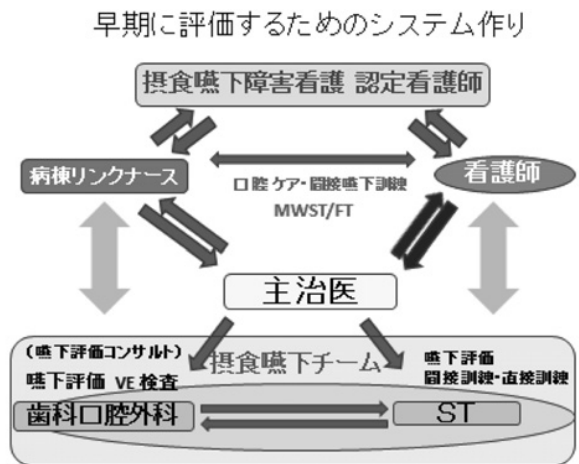
本年度は各病棟の摂食嚥下リンクナースの配置に加え、摂食嚥下障害看護認定看護師が誕生し病棟と摂食

嚥下チームとの連携が更に期待されます。中島歯科口腔外科部長を中心に救命病棟看護師での早期嚥下スクリーニング検査の実施に向けた指導も開始されています。（図1）今後摂食嚥下チームでは病棟との連携を更に強化し、口腔ケアの充実・病棟看護師による間接嚥下訓練の指導など、安全かつ早期に経口摂取につながる支援体制の確立（図2）へ向け取り組んでいきたいと考えています。

（図1）



（図2）



研修医レポート

臨床研修医

かね こ あきら
金子 彰良



研修医1年次の金子彰良と申します。信州大学を卒業し、この4月から熊本医療センターでお世話になっております。久々の熊本での生活は、懐かしさと同時に新鮮さも感じています。多くのスタッフの方々に支えられながら、日々の研修を送っております。

4月は腎臓内科でお世話になりました。この時期は医学というよりも、パソコン操作や病棟での決まり事を学ぶ日々が続いたように思います。医学知識のみならず病院システムに関しても全く無知で、医者らしいことなど何一つできない状態でした。ベッドサイドに向かってもおしゃべり程度しかできず、的確なことを

伝えるには至りませんでした。そんな未熟な私にも先生方は熱心に指導して下さいました。電解質や輸液管理の基本的な内容から、難治症例に対するアプローチなど様々なことを学ぶことができました。また、「内科」にも関わらず、透析シャント作成など外科的要素を持ち合わせている点は腎臓内科の特徴だと感じました。

6月からは外科でお世話になっております。内科とは一味違った雰囲気の中での充実した日々を送っております。外科の醍醐味である手術はもちろんのこと、輸液や抗生剤、カテーテル挿入、ドレーン留置など様々な手技や術後管理を学んでいます。患者様が術後に急変する事態もありましたが、そこでも何もできない状態でした。無力さに打ちひしがれる日々でしたが、同時に患者様のために何をすべきかを考える原動力となりました。

今後回る診療科でも、多大なご迷惑をお掛けすると思います。それと引き換えに自分が成長させてもらっていることを自覚し、皆様のお役に立てるよう日々精進して参ります。今後のご指導ご鞭撻のほどよろしくごお願い申し上げます。

臨床研修医

かとう りかこ
加藤 梨佳子



こんにちは。研修医1年目の加藤 梨佳子と申します。熊本大学医学部を卒業し、4月から熊本医療センターで初期研修をさせていただいています。地元・熊本の救急の中核を担う病院での研修で毎日身の引き締まる思いです。

私は4月に麻酔科から研修生活をスタートいたしました。麻酔科で2か月お世話になった後6月より腎臓内科でお世話になっております。手術室生活からの病棟生活という環境の変化に最初はとまどいでしたが、少しずつですが変化に慣れていっております。

病院のことや研修医の仕事、なにもわからないまま麻酔科での研修がはじまり4月は静脈ルートがとれずあたふた、血圧が少し上下してもあたふた、挿管時にあたふた…と落ち着きのない日々でした。先生方や手

術室スタッフの皆様の熱心な教育と指導、同期との練習によって2か月たつ頃にはなんとか麻酔科らしい働きができるようになったと思います。麻酔科で挿管、ルート確保などの救急で役立つ手技を経験する機会がとて多く、また、呼吸管理やバイタルの観察など全身管理に必要な知識も学ぶことができました。

同期に遅れること2か月、6月より腎臓内科での病棟生活が始まりました。分らないことだらけでしたが2年目の先輩や指導医の先生方に日々指導していただきやっと一通りの業務をこなせるようになりました。初めて患者さんを担当し、患者さんの治療や教育について考えながら過ごしています。腎臓内科は今まで持っていたイメージと大きく違いシャント造設など手技も多く毎日充実しています。また、腎不全だけでなくほかに基礎疾患を持った患者さんも多いので、様々な方法で全身管理を行うことを学んでいる最中です。

これからも様々な科でご迷惑をおかけすると思いますが、少しでもお役に立てるよう日々努力を惜しまない所存であります。これからのご指導ご鞭撻のほどよろしくごお願いいたします。

新任職員紹介



泌尿器科
ふたくち よしき
二口 芳樹

平成27年7月から泌尿器科医師として着任した二口

芳樹と申します。水俣市立総合医療センターから異動になりました。医師7年目で熊本高校、鹿児島大学出身です。元々研修医で2年間お世話になっておりましたが、4年3か月ぶりに戻ってきました。年度の途中からの異動でわからないことも多く、慣れていないことも多々あり御迷惑をおかけすることもあるとは思いますがこれからよろしくお願いたします。

研修のご案内

第199回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）
〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成27年8月17日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 内科基礎講座 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。

「第1症例 20代女性 悪寒を伴う発熱と激しい頭痛」

国立病院機構熊本医療センター総合診療科部長

清川 哲志

「第2症例 腫瘍内科担当症例」

国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科部長

境 健爾

2. ミニレクチャー「糖尿病内分泌のトピックス」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長

豊永 哲至

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第167回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）
〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕
〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成27年8月20日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「妊娠糖尿病における甲状腺機能の解析」

国立病院機構熊本医療センター栄養管理室、糖尿病内分泌内科

松山利奈、和田敏明、高田千太郎、有馬嵩博、大津可絵、坂本和香奈、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至

2. 「2型糖尿病に副腎偶発腫を合併した1症例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科、産婦人科

高田千太郎、有馬嵩博、和田敏明、大津可絵、坂本和香奈、松山利奈、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至
なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至 TEL 096-353-6501(代表) 内線5796

第141回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成27年8月26日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「腹部救急疾患」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長

杉 和洋

国立病院機構熊本医療センター外科部長

宮成信友

国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長

大西義孝

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

2015年 研修日程表 8月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

8月	研修センターホール	研修室
1日(土)		
2日(日)		
3日(月)		
4日(火)		
5日(水)		
6日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「不明熱の考え方」 国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川哲志	
7日(金)		
8日(土)	9:00~17:35 第4回 ELNEC-J in 熊本 -すべてのナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケア- (1日目)	
9日(日)	9:00~17:00 第4回 ELNEC-J in 熊本 -すべてのナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケア- (2日目)	
10日(月)		
11日(火)		
12日(水)	14:00~15:00 第29回 市民公開講座 「大腸がんについて」 国立病院機構熊本医療センター外科医長 久保田竜生	
13日(木)		
14日(金)		
15日(土)		
16日(日)		
17日(月)	19:00~20:30 第199回 月曜会 (内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
18日(火)		
19日(水)		
20日(木)	20:00~21:30 第70回 医歯連携セミナー 「熊本大学歯科口腔外科との連携」 熊本大学大学院生命科学研究部歯科口腔外科学教授 中山秀樹	19:00~20:45 第167回 三木会 (研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
21日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室 (研2) 「慢性肝炎について」
22日(土)		
23日(日)		
24日(月)		
25日(火)		
26日(水)	18:30~20:00 第141回 救急症例検討会 「腹部救急疾患」	
27日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「災害医療」 国立病院機構熊本医療センター救命救急科医長 原田正公	
28日(金)		
29日(土)	13:00~15:30 第137回 公開看護セミナー 「ナラティブから見出す看護の知 ~あなたの実践から宝物をほりおこそう~」 横浜市立大学看護キャリア開発支援センター センター長 陣田泰子	
30日(日)		
31日(月)		

研1~3 2階研修室1~3

 ※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代) 内線2630 096-353-3515 (直通)